

# 言葉届いてる?

政治家の言葉が国民に届かないと言われて久しい。国会論戦への関心もなかなか高まらない。半年余りのうちに衆院選があるいま、考えてみた。政治家の発信力って、何だろう。

## 「熱」ある質問 行政動かす



1967年生まれ。2004年初当選、3期目。立憲民主党代表代行。内閣府特命担当相、民進党代表などを歴任。

れんぼう  
蓮舫さん

立憲民主党参院議員

私は国会の質問に重きを置いています。それで有権者の評価を仰ぎ、仕事をさせてもらっていると思っています。

国会質疑の現場は本音の闘いです。1月27日の予算委員会で、菅義偉首相に「そんな答弁だから言葉が伝わらないんですよ」とたどしました。首相は「少し失礼じゃないでしょうか」と反論され、私への批判を招きました。

その後、「いつも反省するのですが、想いが強すぎて語気を張ってしまつたこと」とツイートし、次はわからげようと猛省しました。一方で「熱」がないと本音は引き出せないとの思いもあります。その後、首相の答弁が比較的長くなりました。届いたのでしよう。だからといって、本音を引き出そうと、あえてあの言い方をしたではありません。降りてきた言葉です。

私の質問は1年かけて準備したり、追い続けているテーマだったり、調査に基づいています。事実を確認し、現実とのずれを指摘して、こうした方がいいと提案する。あの日も、コロナ対策の病床確保で予備費から約2700億円支出するとしながら、その時点で交付が決まっていたのはわずか3億円弱だと指摘しました。海上保安庁の年間予算が2200億円ほどです。使

いづらい予備費を、医療従事者に届けられるよう改善を提案しました。こうした事例は報道されませんが、継続して見ている人は、理解してくれていると思います。

野党の役割の一つが行政監視です。政権に届くよう、短いキャッチフレーズを使うなど言葉を絞ります。批判を承知の上でしないと、物事を前に進めることはできません。

発信の仕方は人それぞれだと思えます。国会対策委員会などを中心に活動し、地道に現場で仕事をしていても、表に出にくい人もいます。私や辻元清美さんは使いやすいキアラなのか、批判の矢面に立つことが多いようです。

与党にもいい質問や答弁をする議員はいっぱいます。

首相では、小泉純一郎さんはわかりやすかったです。安倍晋三前首相にも指導力を感じたことがあります。昨年配られた10万円の給付金を、虐待などで家に帰れない人は受け取れない。4月の予算委員会で質問したら、率直に「政府として、国として守っていかなければならない」と答えただけです。

「検討する」べらいのそつけない答えを予想してしました。すぐに当時の高市早苗総務相にも質問して「必ず本人に行き渡るよう措置する」との答弁を引き出しました。こうして一歩ずつ前に進めるのです。

私は集会もパーティーもやりません。質問で行政改革を行う。そのことをSNSで発信しています。それで届く人には、私の思いは届くと思っています。(聞き手・岸善樹)